

出品資料一覧

第1期

鄂羅斯国エカテリナアレキセウナ肖像 岐阜県歴史資料館 ◎

俄羅斯船図 根室市歴史と自然の資料館

エカテリーナ号模型 平成24年製作 鈴鹿市

『魯西亜人逢対記』 国立公文書館

『漂民幸太夫磯吉帰国記事』 国立公文書館

『魯西亜人一件別録』 東京大学史料編纂所

『異舶航来漂民帰朝紀事』 岐阜県歴史資料館 ◎

函館渡来露船エカテリナ号乗務員像（複製） 函館市中央図書館

フロシヤ人小屋内図（複製） 天理大学附属天理図書館

『戊辰夏鎖記』 国立公文書館

『漂流記』 鈴鹿市

キイタフ之内子モロ場所之図（複製） 天理大学附属天理図書館

ラクスマン来航情景模型 平成24年製作 鈴鹿市

『魯西亜人取扱手留』 東京大学史料編纂所

『蝦夷御備一件』 東京大学史料編纂所

ラックスマンら四人の肖像 岐阜県歴史資料館◎

漂流人帰国松前堅之図并異国人相形図 鈴鹿市

フロシヤ国船ノ図 使節ノ図 岐阜県歴史資料館

『魯西亜人渡来磯谷氏聞書』 岐阜県歴史資料館 ◎

『亜魯西人来朝記』 国立公文書館

『魯西亜舶来一件』 国立公文書館

おろしや国の船一艘長崎にいたるためのしるしのこと 鈴鹿市 ○

『漂流船実録』 鈴鹿市

『日本漂流譚』 鈴鹿市

『北行日録』 国立公文書館

『魯西亜』 刈谷市中央図書館

「漂民御覧之記」写本数点 鈴鹿市

大黒屋光太夫・磯吉画幅 鈴鹿市

『フロシヤ国道具之図』 岐阜県歴史資料館◎

『北槎聞略』 鈴鹿市

北槎聞略附図（複製） 国立公文書館

第Ⅱ期

朝鮮通信使行列図染絵胴掛 白子西町自治会◎

◎ 県指定文化財

○ 市指定文化財

発行日 2012年9月26日

ご利用案内

休館日 月曜日（休日の場合は開館）

火曜日 第3水曜日

年末年始

12月26日・27日 臨時休館

開館時間 10：00-16：00

大黒屋光太夫記念館 鈴鹿市

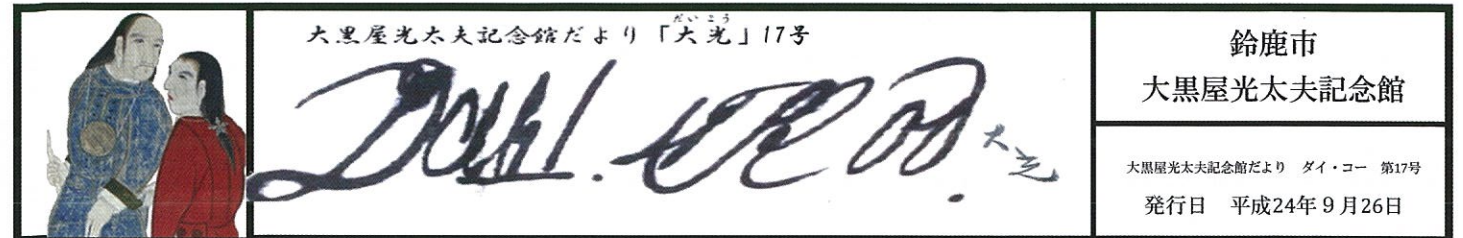
鈴鹿市若松中一丁目1番8号

TEL & FAX 059-384-3797

http://www.edu.city.suzuka.mie.jp/kodayu



エカテリーナ2世



鈴鹿市
大黒屋光太夫記念館

大黒屋光太夫記念館だより ダイ・コー 第17号
発行日 平成24年9月26日

鈴鹿市制施行70周年記念 第8回特別展

「北の黒船・ラクスマン来航—光太夫帰国 220周年—」

2012年は、大黒屋光太夫が帰国して220年の節目の年にあたります。

220年前の秋、光太夫ら3人の漂流者を乗せたロシアの帆船が北海道の別海町沖に現れました。その船は根室港の弁天島の内側に投錨し、漂流者とロシア人一行は船を下りて、根室の海岸に宿舎を建て冬を越します。

その間、ロシア船来航の報せは、根室から松前へ、松前から江戸へと急報され、またたくまに全国へと広まっていきました。

江戸幕府の筆頭老中だった松平定信は、ロシア船来航の目的が、漂流者の送還と日本との交易を求めるものであることを知って思い悩みました。そして、ロシア船が江戸へ回航することを避けるために松前で日ロの会談を開くことにし、場合によっては交易もやむを得ないとして長崎への入港許可書である信牌をロシア側へ発行する決断をするのです。

翌年、松前藩の城下町で開かれた日ロ会談によって、光太夫たちは日本側に引き渡され、ラクスマンは交易を一旦拒否されたものの、信牌を手にしてロシアに帰って行きました。

この光太夫の帰国にともなう一連の出来事は「ラクスマンの来航」と呼ばれ、ペリーが来航する60年前に日本が開国を迫られた最初の事件であったとともに、日本とロシアが初めて公式に対話の場をもつに至った事件でもありました。また、日本にとっては、それまでの外交や海防政策の見直しを迫られる事件ともなったのです。

今回の特別展では、光太夫帰国220周年を迎えるにあたり、ラクスマン来航とはどのような事件だったのかをもう一度振り返ります。

多くの方に、ラクスマン来航が日本を揺るがす大事件だったことや、鈴鹿が生んだ大黒屋光太夫が日ロ関係の始点にいたことを知って頂きたいと思います。



漂流人帰国松前堅之図并異国人相形図 鈴鹿市

エカテリーナ号模型を作成しました。



俄羅斯船図 根室市歴史と自然の資料館



エカテリーナ号模型 1/48 平成24年製作

ラクスマン来航220周年を記念して、船の科学館・海と船の博物館ネットワークの支援をうけてエカテリーナ号の模型を作成しました。エカテリーナ号の絵は根室市歴史と自然の資料館、天理図書館の所有のものをはじめ、北槎聞略附図などから写されて多く残っていますが、いずれも係留されている状態を描いたものです。今回作成した模型は帆をはった状態のエカテリーナ号です。



目次：

ラクスマン来航220年 1

エカテリーナ号模型を
作成しました

ラクスマン来航ジオラ
マについて

特別公開 朝鮮通信使行
列図染絵胴掛

宗次ホール共同企画
大黒屋光太夫とバラライカ
コンサート

今後の展示予定
あとがき

出品資料一覧 4

ロシアに漂流した日本人

光太夫がロシアに漂流する以前に、ロシアに漂流した日本人の記録が残っています。最初は光太夫より90年ほど前に漂流した大阪のデンベイでした。そして、紀州のサニマ、薩摩のゴンザとソウザ、南部佐井の多賀丸漂流者と続きます。いずれもロシアで日本語教師となり、光太夫はイルクーツクで多賀丸漂流者の子孫に出会っています。また、多賀丸漂流者のうち久助の息子トラペズニコフは、ラクスマンの来航の時に測量士として来日しています。



ラクスマン



ロシア人宿舎の図 国立公文書館



風衝林 (根室市歴史と自然の資料館提供)



ラクスマン来航情景ジオラマ 平成24年製作

ラクスマン来航ジオラマについて

ラクスマン来航220年にあたって、エカテリーナ号模型とともにジオラマを作成しました。エカテリーナ号が根室港内の弁天島に投錨し冬を迎えた様子を、天理大学附属天理図書館蔵の「キイタフ之内子モロ場所之図」(以下「子モロ場所之図」と略)を主な参考資料として再現しました。

ジオラマの作製にあたっては、縮尺をどうするかが大きな問題でした。「子モロ場所之図」では海岸と弁天島が至近距離に描かれており、別の史料ではその距離は35間(約70m)という説明が付いています。しかし、現在の地図でみるとその距離は200m程です。弁天島は、大正時代に島の西半分程が削られたようですが、海岸部の埋め立ても進んでいますので、島の掘削によって70mの距離が200mになったということはないでしょう。根室市歴史と自然の資料館様からご提供頂いたラクスマンの測量図によると、島と海岸の距離は約140サージュン(280m)となっており、これが最も信頼できる数値だと思えます。「子モロ場所之図」は、かなりデフォルメされているのです。

しかし、ラクスマンの測量図をもとに1/500スケールで図面を作成したところ、海が殆どの面積を占め、また、縮尺が小さくなるので船や人物が小さくなりすぎてしまいま

した。そこで「子モロ場所之図」のイメージを優先し、島の形については実際の弁天島の形に近づけるようにしました。

ロシア人の宿舎についても、疑問が生じました。宿舎は、山を掘って作ったという日本側の記述があります。図のような宿舎の絵が多く残されており、岩のような外観だったことは間違いなさそうです。しかし、根室の海岸は砂浜で、山はもちろん、家を作れるような大岩もないそうです。どこから岩を運んできたという推測もできますが、いくつか文献を当たったところく2間3間程の湯風呂があり土を盛って塗り込め室のようにしているという記述に辿りつきました。盛り土をして4m×6m程の大きさのサウナを作ったということです。岩のような外観の建物は、盛り土をしたサウナだったと考えることができず。

建物の奥に生えている木の形は、吹き付ける風雪によって変形した風衝林を再現しています。また、ラクスマン来航によって日本にもたらされたと思われるスケートを滑る人や、当時の人にはめずらしかったヤギも配置されています。日本人、ロシア人、アイヌ人もいます。是非、それらにも注目して御覧下さい。

宗次ホールと共同企画

「大黒屋光太夫とバラライカコンサート」

名古屋市にある宗次ホールとの共同企画で「大黒屋光太夫とバラライカコンサート」がひらかれることになりました。

バラライカを演奏されるのは記念館の開館5周年記念の際に若松公民館で演奏して頂いた北川翔さんです。また、市内の飲食店などで構成されている「光太夫ネットワーク」にも協力を依頼し、当日、光太夫にちなんだお菓子の試食販売などをして頂くことになりました。

名古屋近辺にお住まいの方は是非おでかけください。

お問い合わせは、052-265-1718(宗次ホール)まで。

宗次ホール…株式会社老番屋(カレーハウスCoCo老番屋を展開)の創業者宗次徳二・直美夫妻の個人資産により設立された全国的にも珍しい個人が運営するクラシック・コンサートホール

鎮国の江戸時代にあつて、ロシアに漂流し、單身でエカテリーナ号に助見した男大黒屋光太夫の彼の強靱な生き様と、ロシアの民族音楽バラライカの演奏とともに楽しんで下さい。

宗次ホール × 大黒屋光太夫記念館 共同企画

大黒屋光太夫とバラライカコンサート

2012年11月15日(木) 18:30開演 18:00開演 (15:15開演予定)

映画「ドクトル・ツバコ」より ショール・ララのテーマ
クニヤベル・ボールシカ・ボレ
ロシア民族・よもしの、他

バラライカ 北川翔
アコーディオン 大田智美

朗読 ヴォイス・フィールド

一般自由席 ¥2,000

宗次ホール・チケットセンター TEL:052(265)1718

宗次ホール 宗次徳二・直美夫妻の個人資産により設立された全国的にも珍しい個人が運営するクラシック・コンサートホール

<特別公開>朝鮮通信使行列図染絵胴掛 11/22-12/9



朝鮮通信使行列図染絵胴掛 白子西町自治会蔵 鈴鹿市郷土資料室保管

白子の勝速日神社は「かつてさん」と呼ばれ親しまれている神社です。春季例大祭には絢爛豪華な幕で飾りつけられた屋台が西町・中町・東町・山中町から曳きだされ、勝速日神社に奉納され、妍を競います。それら屋台は、祭礼の時以外はそれぞれの町で保管されていますが、この「朝鮮通信使行列図染絵胴掛」は、屋台を収納する西町の蔵の中から平成9年に発見されました。そして、平成12年に三重県の有形民俗文化財の指定を受けました。

このような幕に朝鮮通信使の図柄が描かれる例は他になく、歴史資料として貴重であるため県指定文化財になりました。隙間なく描かれた行列図は非常に手間が込んでおり、多彩なものです。技術的には、筒描友禅といわれる江戸時代中期頃から広く用いられた技法が用いられています。大きさは125.5cm×914.5cmという大きなものですが、最後尾の上部に継ぎ足された布が最下段の絵柄に続くことから、当初は現状よりも1枚多い5枚で仕立てられた幕であったことがわかっています。

この朝鮮通信使行列図染絵胴掛は「夜の幕」として使われていたと伝えられています。夜の幕とは、屋台が夜露に濡れるのを保護するために用いられる幕のことです。

平成9年に発見された当時から損傷が激しく、地元で補修を行ったそうです。その後、大阪で一度展示されたことがありましたが、それ以外は状態が良くないために展示を見送ってきました。今回、白子西町自治会のご協力を受け、大黒屋光太夫記念館で展示することになりました。



今後の展示予定

- * 9月26日から11月18日
第8回特別展 北の黒船・ラクスマン来航一光太夫帰国 220周年一
展示解説 9月29日(土)/10月27日(土) 10:00~
- * 11月22日から12月9日
特別公開 朝鮮通信使胴掛
- * 12月12日から3月17日
光太夫が書いたロシア文字
- * 3月21日から7月21日
光太夫の里がえり-鈴鹿市指定文化財 大黒屋光太夫らの帰郷文書-



あとがき
日本とロシアの関係は、レザノフ来航以降、緊迫感を増していきます。

しかし、最初の日ロ交流は、国と国との関係を築く以前に、漂流した日本人とロシア人の中で生まれたものでした。光太夫は多くのロシア人の厚意によって、アムチトカ島からカムチャッカ、イルクーツク、ペテルブルグと旅をします。なかでもキリル・ラクスマン(遣日使節アダム・ラクスマンの父親)と出会ったことが大きな転機となり、帰国への道が開けます。遣日使節の派遣は、日本との交易を目指したものでしたが、キリル・ラクスマンと光太夫との間に生まれた絆が「ラクスマン来航」へと結びついたことも忘れてはいけません。

日ロ関係の原点に大黒屋光太夫の存在があり、友好関係から始まったことも知って頂きたいと思います。